

医薬品副作用被害救済制度の研修（制度説明）
に関するアンケート調査 集計結果

令和6事業年度第2回救済業務委員会
（令和6年12月26日）

調査の概要

【調査目的】

医療現場における救済制度の認知率の把握、救済制度への意識調査、今後の講演活動の改善に向けた意見等の聴取、研修後の医療機関の意識や体制の変化などの把握を目的として実施

【調査対象】

- ① **（当日調査）** P M D A 職員が医薬品副作用被害救済制度の講演「出前講座」を行った医療機関における研修受講者
- ② **（3か月後調査）** P M D A 職員が「出前講座」を行った医療機関のうち、当日調査にご協力いただいた医療機関
- ③ **（eラーニング調査）** 医薬品副作用被害救済制度等に関するeラーニング講座※における研修受講者

※ P M D A の H P で公開している、制度創設の背景、制度の仕組み、請求から決定・給付までの流れ、必要書類、事例紹介などの情報を組み入れたeラーニング

【調査方法】

- ① **（当日調査）** 研修受講者に対して研修実施直後にアンケート調査を行い、当日もしくは後日回収
- ② **（3か月後調査）** 研修実施後3か月を目途に回答を依頼し、回収
- ③ **（eラーニング調査）** 研修受講者に対してeラーニング研修完了直後に画面上のアンケートへの回答を依頼

【回収状況】

- ① **（当日調査）** 昨年度に研修を実施した25箇所の医療機関に協力を依頼し、2,378人の受講者から調査票を回収
- ② **（3か月後調査）** 当日調査にご協力いただいた医療機関の計16箇所から調査票を回収
- ③ **（eラーニング調査）** 令和5年4月から翌年3月にかけてeラーニング研修受講者へ回答を依頼した結果、7,692人が回答

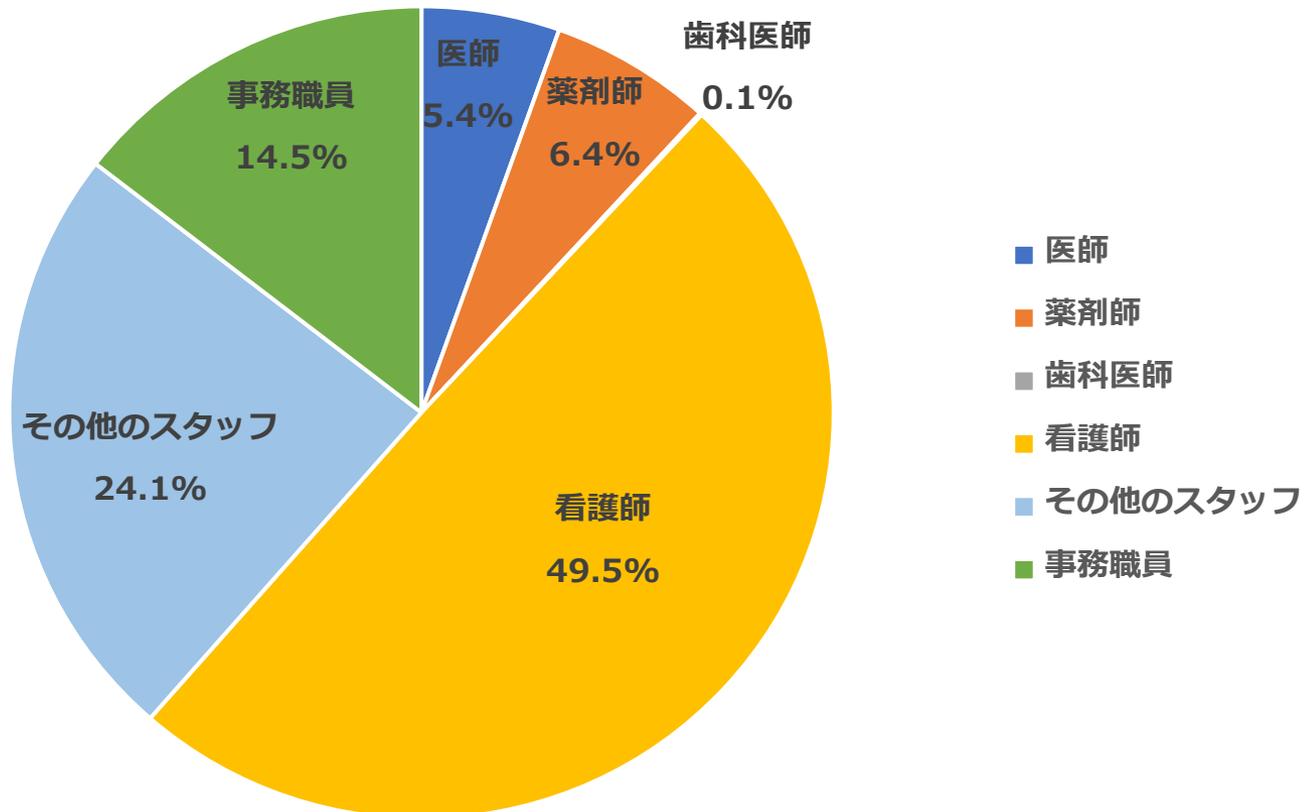
令和5年度
出前講座 アンケート調査

① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-1. あなたの職種をお答えください

医師	薬剤師	歯科医師	看護師	その他の医療スタッフ (臨床検査技師、ソーシャルワーカー、社会福祉士など)	事務職員	合計
129	152	2	1,178	572	345	2,378

<受講者割合>

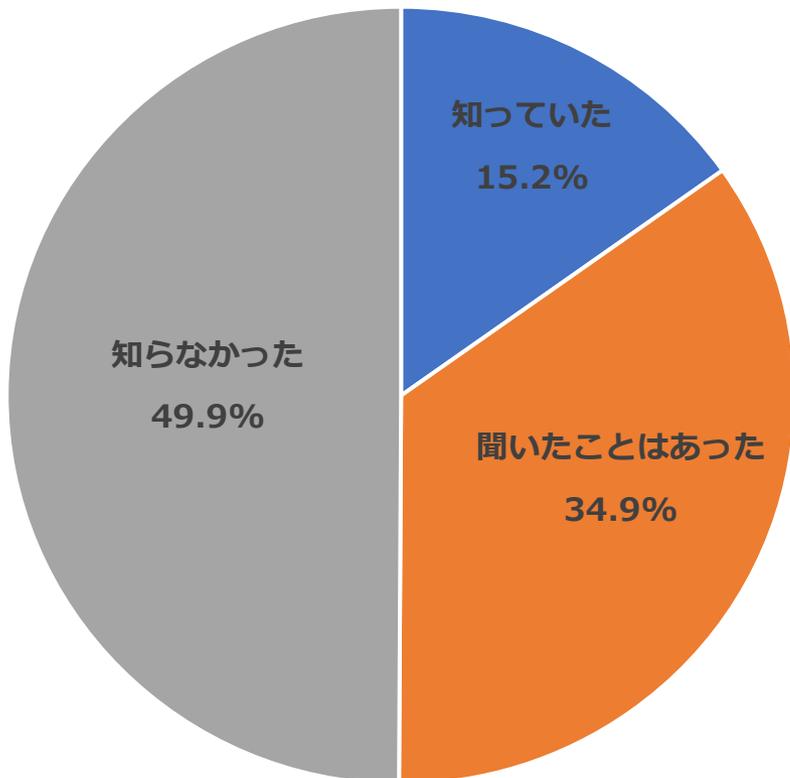


① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-2. 本日の講演を聴く前から救済制度をご存じでしたか（全体）

知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	合計	未回答
360	829	1,185	2,374	4

<認知度割合>



- 講演前における研修受講者の制度認知率は、
 - ・ 「知っていた」 + 「聞いたことはあった」 **50.1%**
 - 内訳：「知っていた」 15.2%
 - 「聞いたことはあった」 34.9%
 - ・ 「知らなかった」 49.9%

① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-2. 本日の講演を聴く前から救済制度をご存じでしたか（職種別）

職種	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	合計
医師	66	45	18	129
薬剤師	124	21	7	152
歯科医師	1	1	0	2
看護師	90	451	638	1,179
その他の医療スタッフ	42	176	349	567
事務職員	37	135	173	345

【講演前における研修受講者の制度認知率】

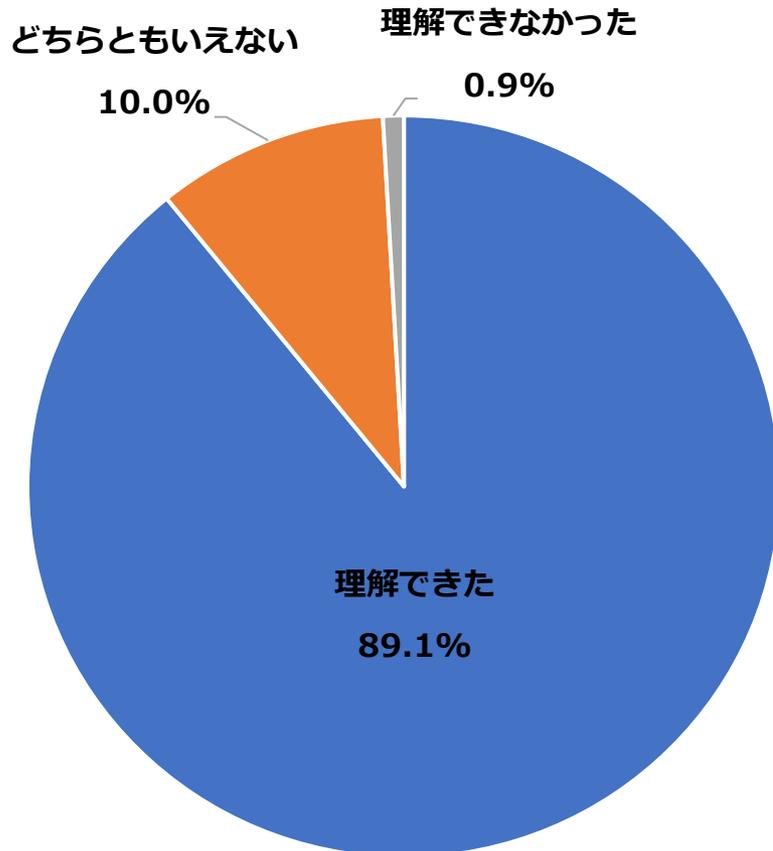
職種	認知率 (知っていた+聞いたことはあった)	内訳	
		知っていた	聞いたことはあった
医師	86.0%	51.2%	34.9%
薬剤師	95.4%	81.6%	13.8%
歯科医師	100%	50.0%	50.0%
看護師	45.9%	7.6%	38.3%
その他の医療スタッフ	38.4%	7.4%	31.0%
事務職員	49.9%	10.7%	39.1%

① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-3. 本日の講演で救済制度の内容を理解していただけましたか（全体）

理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	合計	未回答
2,095	234	21	2,350	28

<理解度割合>



【どちらともいえない・理解できなかった理由】 （自由記載欄抜粋）

- 実際に対応をしたことがないため。
- もう少し詳細を知りたかった。
- 概要は理解できたが、制度を説明できる程度まで理解することはできなかった。
- 制度の内容が複雑なため、1回では理解できなかった。
- 名前を知らない医薬品が数多くあった。

① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-3. 本日の講演で救済制度の内容を理解していただけましたか（職種別）

職種	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	合計
医師	126	2	0	128
薬剤師	145	3	0	148
歯科医師	2	0	0	2
看護師	1,027	134	7	1,168
その他の医療スタッフ	489	64	10	563
事務職員	306	31	4	341

【講演後における研修受講者の理解度】

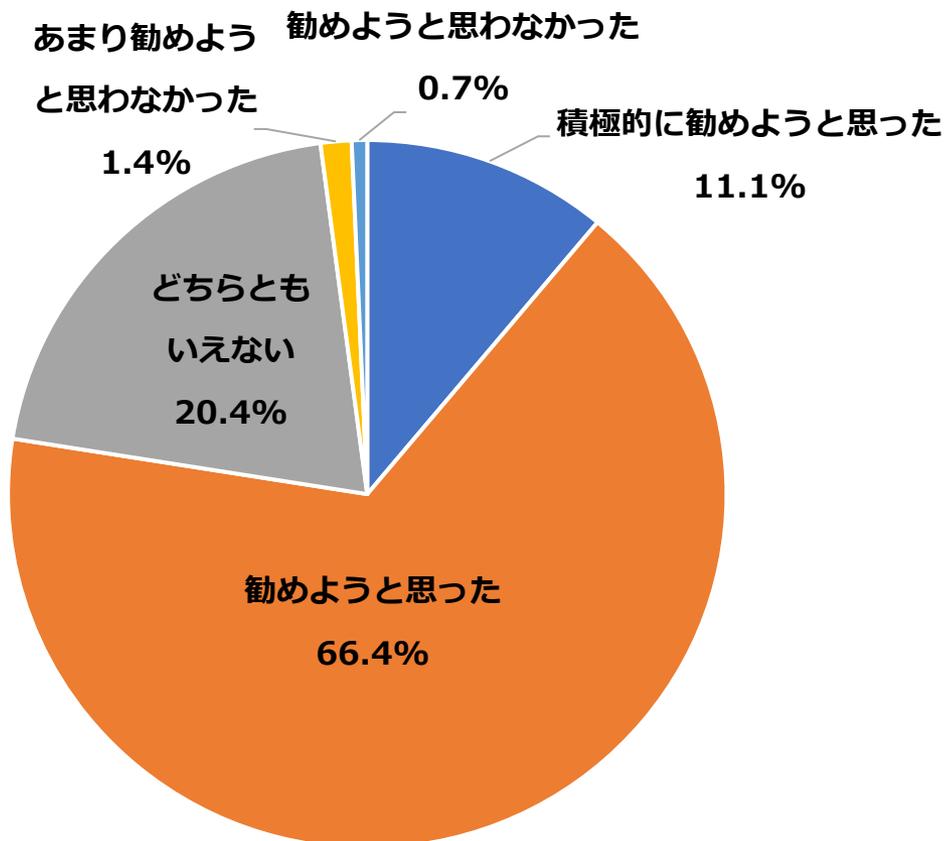
職種	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった
医師	98.4%	1.6%	0%
薬剤師	98.0%	2.0%	0%
歯科医師	100%	0%	0%
看護師	87.9%	11.5%	0.6%
その他の医療スタッフ	86.9%	11.4%	1.8%
事務職員	89.7%	9.1%	1.2%

① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-4. 講演を聴いて、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたが（全体）

積極的に勧めよう と思った	勧めようと思 った	どちらとも いえない	あまり勧めよう と思わなかった	勧めようと思 わなかった	合計	未回答
255	1,530	470	32	16	2,303	75

<勧奨率>



「積極的に勧めようと思った」、「勧めようと思った」といった肯定的な意見が約78%を占めた。

① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-4. 講演を聴いて、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたか（職種別）

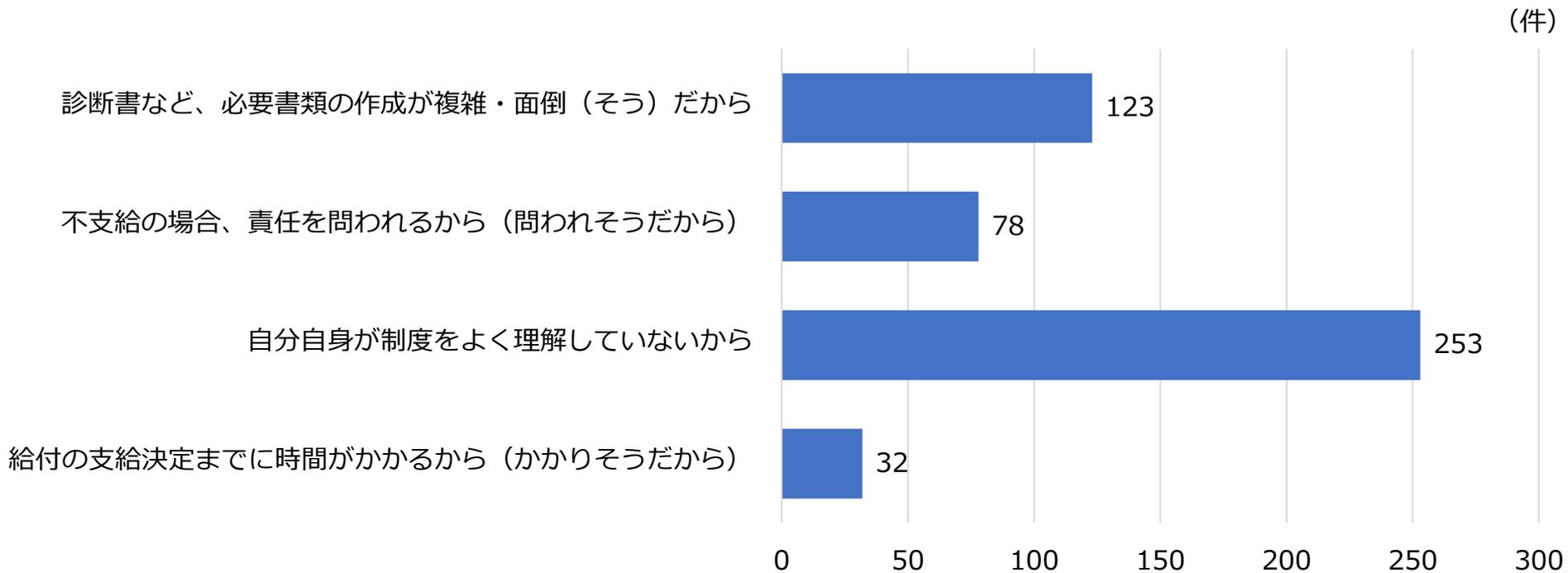
	積極的に勧めようと思った	勧めようと思った	どちらともいえない	あまり勧めようと思わなかった	勧めようと思わなかった	合計
医師	22 (18.5%)	88 (73.9%)	8 (6.7%)	0	1 (0.8%)	119
薬剤師	34 (22.7%)	102 (68.0%)	13 (8.7%)	1 (0.7%)	0	150
歯科医師	0	2 (100%)	0	0	0	2
看護師	92 (8.0%)	784 (68.5%)	244 (21.3%)	18 (1.6%)	7 (0.6%)	1,145
その他の医療スタッフ	67 (12.2%)	334 (60.7%)	139 (25.3%)	7 (1.3%)	3 (0.5%)	550
事務職員	40 (11.9%)	220 (65.3%)	66 (19.6%)	6 (1.8%)	5 (1.5%)	337

① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-4. 講演を聴いて、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたが

「どちらともいえない」「あまり勧めようと思わなかった」「勧めようと思わなかった」を選んだ理由（n=486）（複数回答可）

診断書など、必要書類の作成が複雑・面倒（そう）だから	不支給の場合、責任を問われるから（問われそうだから）	自分自身が制度をよく理解していないから	給付の支給決定までに時間がかかるから（かかりそうだから）
123	78	253	32



① 【当日調査】 アンケート集計結果（令和5年4月～令和6年3月）

①-5. 講演についてご意見、ご要望があれば、何でも結構ですので記入してください

【医薬品副作用被害救済制度についての意見】（抜粋）

【医師】

- ・実際の事例や支給される金額の例なども聞いて参考になった。

【歯科医師】

- ・新しいデータも入っていて良かった。

【薬剤師】

- ・今まで、患者さんへご紹介することを意識したことが無かったので、今後は必要時にきちんとお伝えできるようにしていきたい。

【看護師】

- ・副作用の報告が年間7～8万件ある中、救済制度があることを知らずに給付されなかったケースが多くあるなら、医療従事者として制度を理解して紹介できるようにしたい。
- ・あまり制度が知れ渡っていないと思うので、今後様々な方面からの情報で知識を深められたらいいと思った。

【医療ソーシャルワーカー】

- ・救済制度のことは今回の研修会まで知らなかったが、実際に起きた薬害事件は知っている物が多く制度の重要さを理解することができた。

【作業療法士】

- ・適正使用となるように、検査や禁忌をしっかりとっておくことが大切だと改めて思った。

②【3か月後調査】アンケート集計結果

(令和5年度で3か月調査の対象となっている療機関のうち、ご協力いただいた16箇所の回答)

②-1. 救済制度に関する研修を行うきっかけは何でしたか

- 医療関係団体を通じた厚生労働省又はPMDAからの救済制度の広報についての協力依頼通知
- 医師や薬剤師からの申し出
- PMDAメディナビからの配信メール

②-2. 研修実施後、研修内容や救済制度について、貴院内に周知する取り組みをされましたか

- 講演資料とパンフレットを配布。
- 院内説明会等の開催。
- eラーニング講座の周知

②-3. 院内体制（研修前）（複数回答可）

制度相談担当部署あり	書類作成支援担当あり	制度相談手順あり	書類作成支援手順あり	体制・手順等なし
0	2	1	0	14

②-4. 救済制度の利用促進について

多くの方の制度利用に繋げるためには、医療機関においてどのような工夫や仕組みがあればよいと思われますか（自由記述）

- ・ 院内に担当部署や専門のコールセンターを設置する。
- ・ 健康被害が起こった場合の制度利用に繋げるための担当・フロー図を作成する。
- ・ 患者さんやご家族の方に対して講演会などを行う。
- ・ パンフレットを配布したり、院外の調剤薬局にもパンフレット等を設置する。

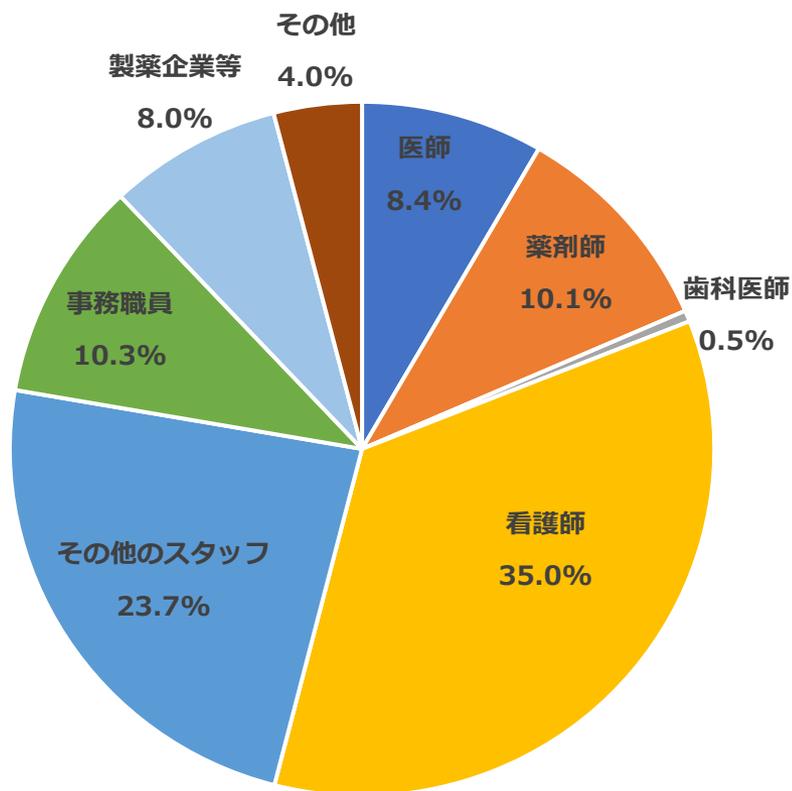
令和5年度
eラーニング講座 アンケート調査

③ 【eラーニング調査】アンケート集計結果

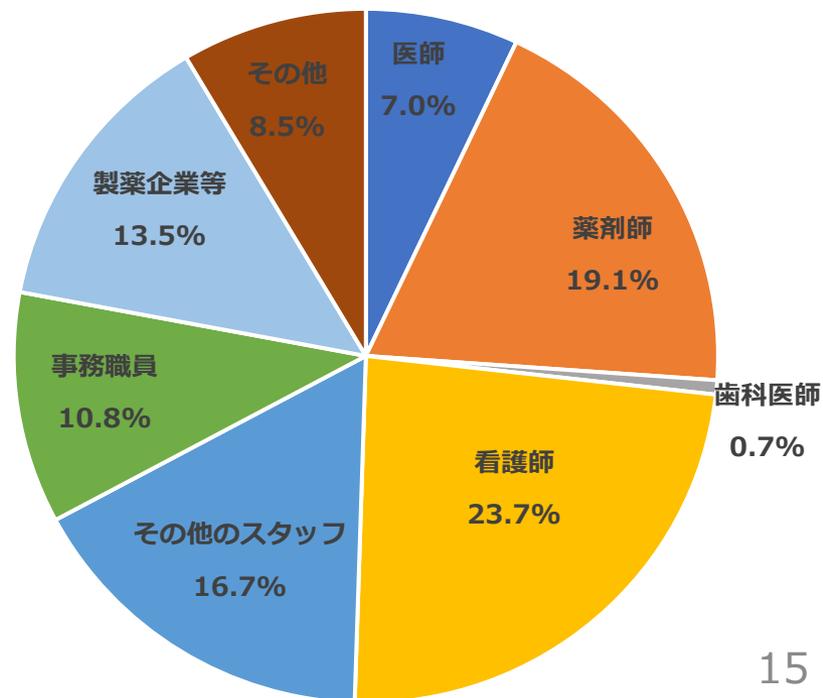
1. あなたの職種をお答えください

	医師	薬剤師	歯科医師	看護師	その他の医療 スタッフ (臨床検査技師、ソーシャル ワーカー、社会福祉士など)	事務職員	製薬企業 等	その他 (学生、教員、 社労士など)	合計
令和5年度	644	778	40	2,692	1,824	789	614	311	7,692
令和4年度	159	432	15	537	377	244	306	193	2,263

【令和5年度】



【令和4年度】

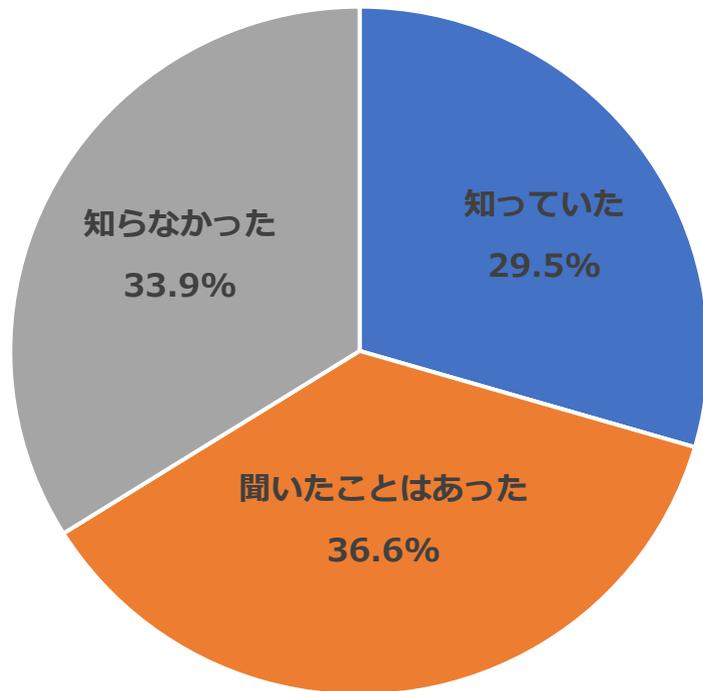


③ 【eラーニング調査】 アンケート集計結果

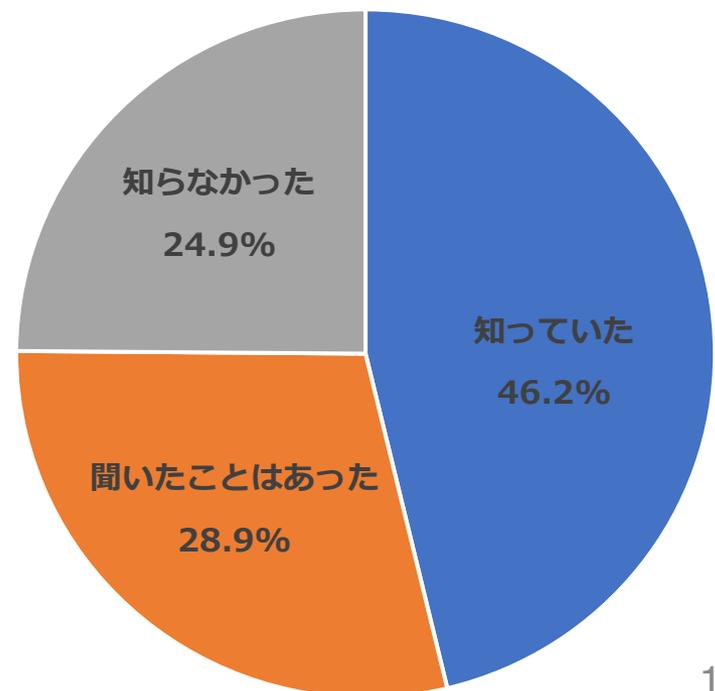
2. 今回の受講の前から救済制度をご存じでしたか（全体）

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	合計	未回答
令和5年度	2,270	2,815	2,607	7,692	0
令和4年度	1,039	649	559	2,247	16

【令和5年度】



【令和4年度】



③ 【eラーニング調査】 アンケート集計結果

2. 今回の受講の前から救済制度をご存じでしたか（職種別）

【令和5年度】

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	合計
医師	344 (53.4%)	240 (37.3%)	60 (9.3%)	644
薬剤師	673 (86.5%)	91 (11.7%)	14 (1.8%)	778
歯科医師	12 (30.0%)	19 (47.5%)	9 (22.5)	40
看護師	345 (12.8%)	1,215 (45.1%)	1,132 (42.1%)	2,692
その他の医療スタッフ	194 (10.6%)	698 (38.3%)	932 (51.1%)	1,824
事務職員	155 (19.6%)	327 (41.4%)	307 (38.9%)	789
製薬企業等	459 (74.8%)	122 (19.9%)	33 (5.4%)	614
その他	88 (28.3%)	103 (33.1%)	120 (38.6%)	311

【令和4年度】

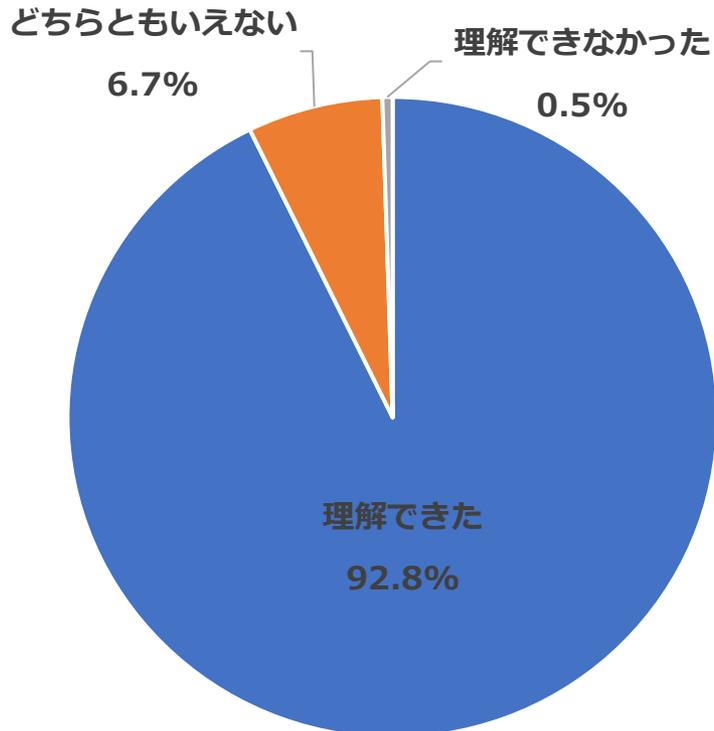
	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	合計
医師	98 (62.8%)	44 (28.2%)	14 (9%)	156
薬剤師	394 (92%)	32 (7.5%)	2 (0.5%)	428
歯科医師	9 (60%)	6 (40%)	0	15
看護師	79 (14.8%)	247 (46.3%)	207 (38.8%)	533
その他の医療スタッフ	47 (12.5%)	146 (39%)	182 (48.5%)	375
事務職員	74 (30.4%)	80 (33%)	89 (36.6%)	243
製薬企業等	272 (89.2%)	30 (9.8%)	3 (1%)	305
その他	66 (34.4%)	64 (33.3%)	62 (32.3%)	192

③ 【eラーニング調査】 アンケート集計結果

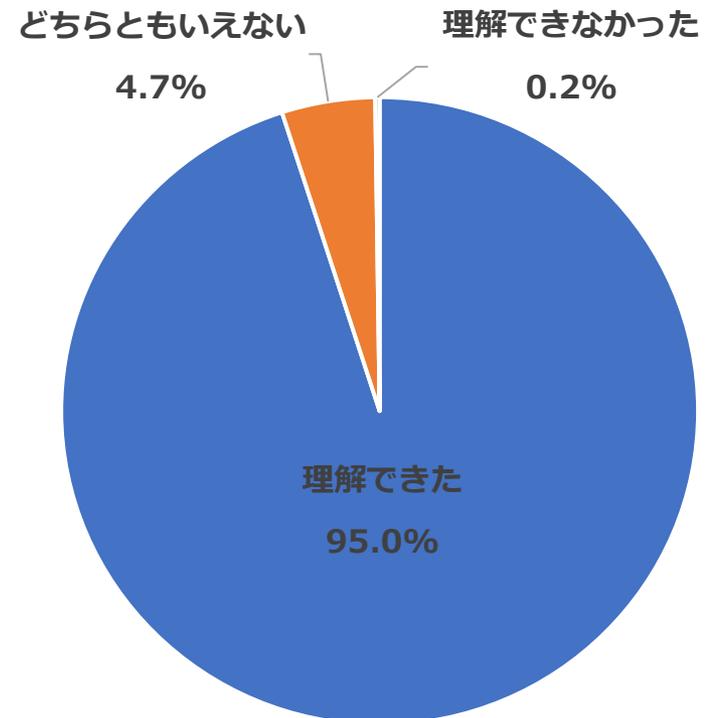
3. 今回の受講で救済制度の内容を理解していただけましたか（全体）

	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	合計	未回答
令和5年度	7,135	518	39	7,692	0
令和4年度	2,145	107	5	2,257	6

【令和5年度】



【令和4年度】



③ 【eラーニング調査】アンケート集計結果

3. 今回の受講で救済制度の内容を理解していただけましたか（全体）

<どちらともいえない・理解できなかった理由>

（自由記載、主なもの）

- ポスター等を見たことはあったが、内容まではよく知らなかった。一度では難しいので、複数回視聴して理解したい。
- 実際に関わったことがなく、必要になった際に迅速に対応できるか不安。
- 自分自身の薬剤の知識が足りていないため、わからない部分があった。
- 適応する症例かどうかの判断や、必要書類の書き方など難しい。
- 制度は理解したが、細かい手続きについては理解しきれていない。
- 以前より知っていたが、理解できたとは言えない。

③ 【eラーニング調査】アンケート集計結果

3. 今回の受講で救済制度の内容を理解していただけましたか（職種別）

【令和5年度】

	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	合計
医師	634 (98.4%)	10 (1.6%)	0	644
薬剤師	762 (97.9%)	16 (2.1%)	0	778
歯科医師	37 (92.5%)	3 (7.5%)	0	40
看護師	2,476 (92.0%)	207 (7.7%)	9 (0.3%)	2,692
その他の医療スタッフ	1,603 (87.9%)	199 (10.9%)	22 (1.2%)	1,824
事務職員	739 (93.7%)	48 (6.1%)	2 (0.3%)	789
製薬企業等	590 (96.1%)	23 (3.7%)	1 (0.2%)	614
その他	294 (94.5%)	12 (3.9%)	5 (1.6%)	311

【令和4年度】

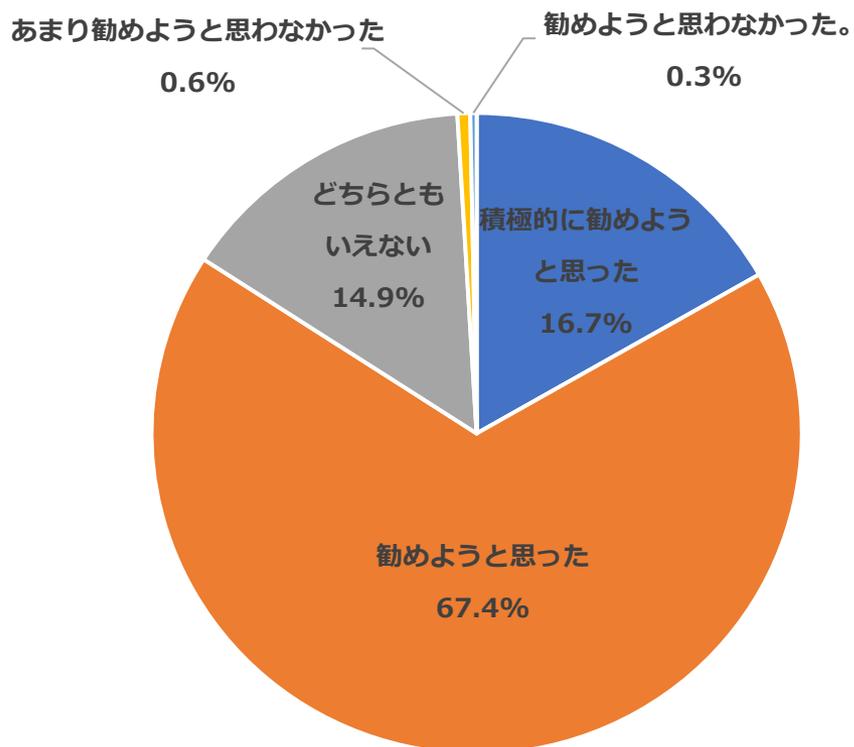
	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	合計
医師	156 (99.4%)	1 (0.6%)	0	157
薬剤師	424 (98.2%)	7 (1.6%)	1 (0.2%)	432
歯科医師	15 (100%)	0	0	15
看護師	479 (89.2%)	55 (10.2%)	3 (0.6%)	537
その他の医療スタッフ	351 (93.9%)	23 (6.1%)	0	374
事務職員	231 (95.1%)	11 (4.5%)	1 (0.4%)	243
製薬企業等	303 (99.0%)	3 (1.0%)	0	306
その他	186 (96.4%)	7 (3.6%)	0	193

③ 【eラーニング調査】アンケート集計結果

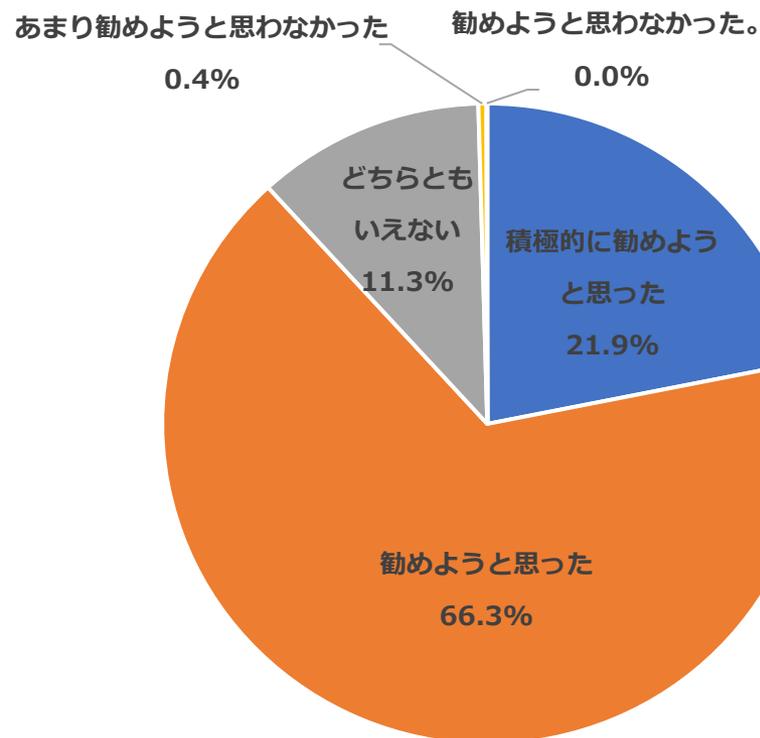
4. eラーニングを受講して、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたが（全体）

	積極的に勧めよう と思った	勧めよう と思った	どちらとも いけない	あまり勧めよう と思わなかった	勧めよう と思わなかった	合計	未回答
令和5年度	1,288	5,184	1,147	49	24	7,692	0
令和4年度	494	1,497	256	9	1	2,257	6

【令和5年度】



【令和4年度】



③ 【eラーニング調査】アンケート集計結果

4. eラーニングを受講して、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたが（職種別）

【令和5年度】

【令和4年度】

	積極的に勧めようと思った	勧めようと思った	どちらともいえない	あまり勧めようと思わなかった	勧めようと思わなかった	合計
医師	214 (33.2%)	395 (61.3%)	34 (5.3%)	0	1 (0.2%)	644
薬剤師	194 (24.9%)	519 (66.7%)	64 (8.2%)	0	1 (0.1%)	778
歯科医師	8 (20.0%)	27 (67.5%)	5 (12.5%)	0	0	40
看護師	317 (11.8%)	1,915 (71.1%)	432 (16.0%)	21 (0.8%)	7 (0.3%)	2,692
その他の医療スタッフ	217 (11.9%)	1,190 (65.2%)	386 (21.2%)	21 (1.2%)	10 (0.5%)	1,824
事務職員	83 (10.5%)	571 (72.4%)	127 (16.1%)	4 (0.5%)	4 (0.5%)	789
製薬企業等	156 (25.4%)	388 (63.2%)	67 (10.9%)	2 (0.3%)	1 (0.2%)	614
その他	99 (31.8%)	179 (57.6%)	32 (10.3%)	1 (0.3%)	0	311

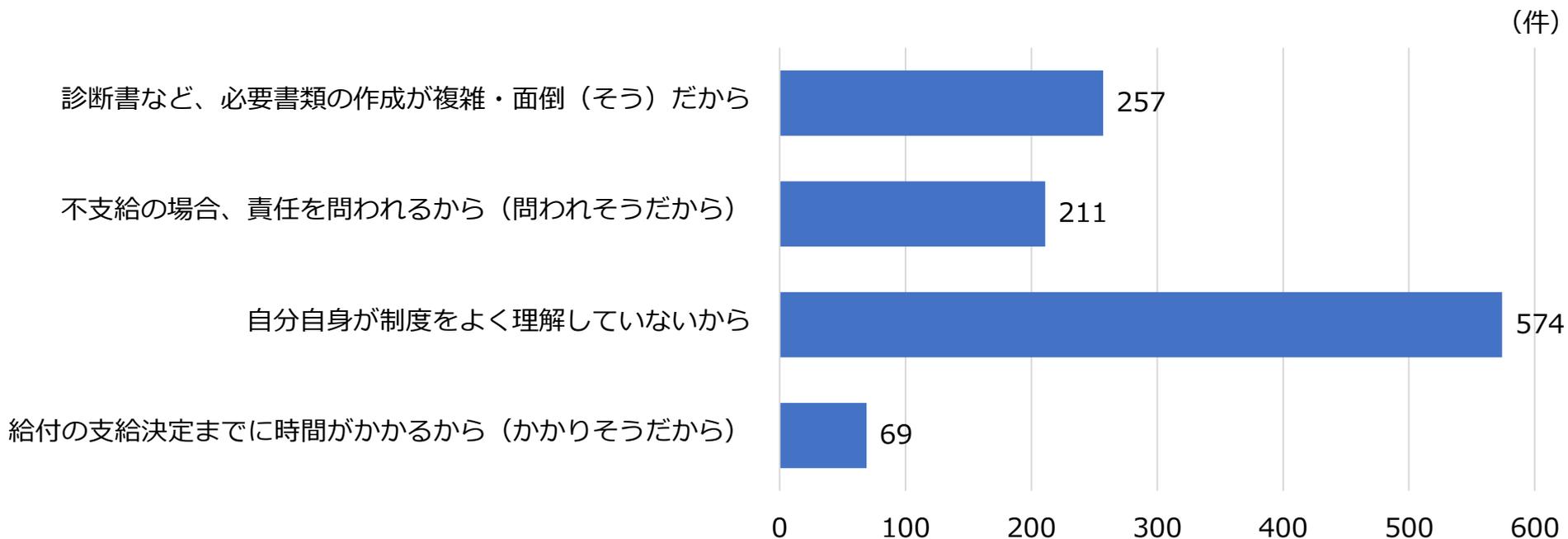
	積極的に勧めようと思った	勧めようと思った	どちらともいえない	あまり勧めようと思わなかった	勧めようと思わなかった	合計
医師	57 (35.9%)	100 (62.9%)	2 (1.2%)	0	0	159
薬剤師	121 (28.1%)	279 (64.7%)	31 (7.2%)	0	0	431
歯科医師	6 (42.9%)	8 (57.1%)	0	0	0	14
看護師	55 (10.3%)	380 (71.0%)	95 (17.8%)	5 (0.9%)	0	535
その他の医療スタッフ	50 (13.3%)	266 (70.7%)	56 (14.9%)	4 (1.1%)	0	376
事務職員	36 (14.8%)	174 (71.3%)	33 (13.5%)	0	1 (0.4%)	244
製薬企業等	100 (32.8%)	180 (59%)	25 (8.2%)	0	0	305
その他	69 (35.8%)	110 (57%)	14 (7.2%)	0	0	193

③ 【eラーニング調査】 アンケート集計結果

4. eラーニングを受講して、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたが（全体）

「どちらともいえない」「あまり勧めようと思わなかった」「勧めようと思わなかった」を選んだ理由（n=1,111）（複数回答可）

	診断書など、必要書類の作成が複雑・面倒（そう）だから	不支給の場合、責任を問われるから（問われそうだから）	自分自身が制度をよく理解していないから	給付の支給決定までに時間がかかるから（かかりそうだから）
令和5年度	257 (23.1%)	211 (19.0%)	574 (51.7%)	69 (6.2%)
(令和4年度)	75 (29.0%)	46 (17.8%)	132 (51.0%)	6 (2.2%)



③ 【eラーニング調査】 アンケート集計結果

5. ご意見、ご要望があれば、何でも結構ですので記入してください

医薬品副作用被害救済制度についての意見（抜粋）

【医師】

- ・ 診断書の作成に労力がかかるので、できるだけ簡便に記入できるようにしていただきたい。
- ・ 制度について、薬局、コンビニなど大衆が利用するようなお店に大きく掲示をした方がいいと思う。

【歯科医師】

- ・ eラーニングについて、よくできた内容であり、大学教育に必要な教材だと思った。

【薬剤師】

- ・ 副作用のチェックだけでなく、日頃からその薬剤が適正使用されているかの確認の必要性を感じた。
- ・ 本制度について、薬剤師の認知度は高いが、その他の職種（看護師等）の認知度は低いため、eラーニングについて、薬学部以外の医療系学部で積極的に使用いただくような取り組みがあるとよいと感じた。
- ・ 制度の名称が堅い印象があるため、何か別の呼称があれば、認知度、制度の普及につながるのではと思う。

【看護師】

- ・ 患者様や家族への周知できるよう、ポスターの掲示など、自分達でできる範囲で活動できたらいいと感じた。
- ・ 本制度は薬剤師に限らず、医療従事者全員が理解しておくべき内容だと思った。
- ・ 制度を勧めていきたいと思ったが、どのようなタイミングで言えばよいのか、また誰が伝えていくことが適切であるのか判断に迷うことがある。

【事務職員】

- ・ 自分も患者として薬を貰う立場になることはあるので、知識として知っておくことは大切だと思った。
- ・ リスクとベネフィットについてよく理解し、患者さんとの懸け橋になれるよう努めたい。

【その他】

- ・ （理学療法士）理学療法士が薬剤に関わる場面は少ないが、理学療法士も知っておくべき制度だと思った。
- ・ （学生）まだ浸透していないこの制度が、多くの人知っている制度になるよう広めたいと思った。
- ・ （製薬企業）医師に対して、用法用量など、適正使用情報を今後もしっかりお伝えしていきたいと思った。